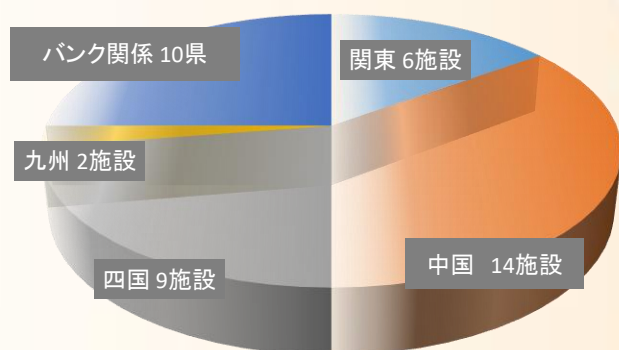


令和5年度 日本骨髄バンク中四国ブロック会議 併催 造血幹細胞移植推進拠点病院 中四国ブロックセミナー

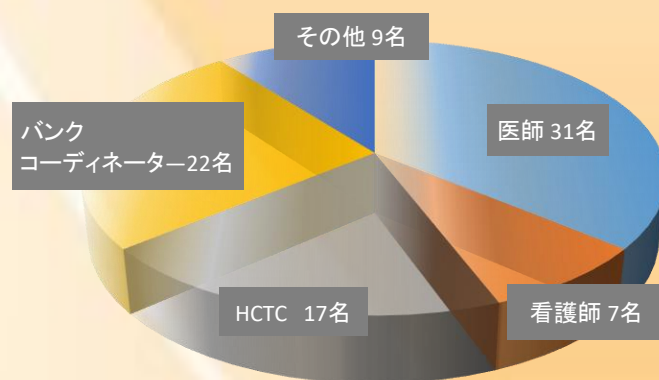
3/9(土)
10:00~12:35
開催報告

開催方法：Zoomによるオンライン開催
参加者：86名 参加施設：31施設+バンク10県
ブロックを越えて多くの方々にご参加いただきたく、オンラインで開催いたしました。
また、多くの調整医師の先生方にも視聴していただきたく、後日YouTube配信もおこないました。

参加施設



参加職種



第一部 骨髄バンクブロック会議

（公財）日本骨髄バンク 事務局長の小川みどり様から「骨髄バンクの現状と今後の展望」についてのご報告がありました。現在、骨髄バンクでは1. 若年ドナーが少ない 2. ドナー受諾率が低い 3. 移植までの期間が長いこの3つの課題を挙げており、課題に対してスワブを用いたHLA検査&オンライン登録やSNS等の積極的活用、最終同意面談を行う際にリモートを活用するなどの取り組みをしていることをご紹介いただきました。

医療委員会委員の藤井伸治先生からは、新型コロナウイルス特別対応「凍結申請」について、2023年4月からのインシデント報告、NGS-SBT法検査実施の推奨についてのお話を伺いました。

ドナー安全委員会委員の名和由一郎からは、2022年度のドナーに関する事例報告（有害事象報告、前処置開始後の採取中止、延期事例）、緊急安全情報についての報告がありました。

骨髄バンクの現状を知り、今後の移植治療に繋げることができる貴重な機会となりました。

第二部 中四国ブロックセミナー

調整医師に知ってもらいたい最新の骨髄バンクドナーコーディネート
(公財) 日本骨髄バンク 中四国事務局
松浦 裕子先生

骨髄バンクにおける患者・ドナーコーディネートの流れ、調整医師の活動の実際やドナー適格性判定の考え方についてのお話を伺いました。

以前はドナー適格性判定の初期判定・確認検査判定は地区代表医師により行われていましたが、現在は効率化(期間短縮)と確認検査行程での判断の相違を防ぐ目的で調整医師が行うように変更されています。調整医師の先生方の問診及び判断が重要となるため、ドナー適格性判定の考え方や報告書の記載方法などについて詳細にお話してくださいました。

また、新しい取り組みとして、確認検査面談(検討中)や最終同意面談のリモート活用についても紹介があり、骨髄バンクのドナーコーディネート期間の短縮に向けての取り組みを知ることができました。

臍帯血有害事象報告の変更について

日本赤十字社 血液事業本部 技術部
造血幹細胞事業管理課 土居 慧郎先生

令和6年4月以降(予定)、臍帯血輸注による副反応の基本報告はWEBへ変更され、重篤症例のみ従来の書面報告となること、重篤・非重篤の判定基準をCTCAE準拠とすることなど、報告方法の変更についてのお話を伺いました。

造血幹細胞移植ドナー選択アップデート

神戸市立医療センター中央市民病院
血液内科部長 近藤 忠一先生

近年、GVHD予防法が進歩しており、造血幹細胞移植患者は多様なドナーを選択することが可能となっています。そこで、ドナーを選択するにあたって最新の情報をお話していただきました。

HLA適合ドナーが骨髄バンクで不在の場合は、ATGやMMFなどのGVHD予防法を工夫することにより、血縁や非血縁でHLA一座不一致ドナーを選択しても成績を向上させる可能性がある。また、患者さんの病状により移植を急ぐため、骨髄バンクでのコーディネートが待てない場合は、臍帯血もしくはPTCyを用いた血縁者間HLA半合致移植が選択肢とされるが、AMLでハイリスクの場合、臍帯血の方が再発を抑えられるかもしれない。年齢が若いドナーを得られそうな場合や移植前にMRDが残存しているPh(-)ALL患者さんに対しては、あえてHLAミスマッチドナーを考慮してもよいのかもしれない、などドナー選択の考え方について伺いました。

多様なドナーを選択することが可能となっている今、疾患や状態に適したドナー選択を行うための知識を得ることができました。

造血幹細胞移植推進拠点病院
愛媛県立中央病院